

《甲良町地域商業の核を目指して》

犬上郡甲良町　せせらぎTOWN アイム
犬上郡甲良町在士

今回紹介する「せせらぎTOWN アイム」は甲良町の中心部分である甲良町役場や甲良町商工会などの近くに立地し、すぐ横には同町出身で東照宮の縄張りを賞せられ、後に大大名となる藤堂高虎の像が建立された公園がある。

同地域は県内有数の農村地帯であり、犬上ダムからの豊かな水の流れは甲良町の隅々まで水路をめぐらし、「清らかな水の湛うる、せせらぎ遊園のまち」をテーマにしたまちづくりが現在すすめられている。「せせらぎTOWN アイム」の名称は公募により命名された。せせらぎTOWNは甲良町の政策の一環であり、アイムは愛される夢の店を意味する。

地元有志による地域商業活性化

「せせらぎTOWN アイム」は平成6年5月に甲良商業近代化協同組合（理事長川上譲氏）により設立され、オープンした。同組合の歴史は古く、農協系のミニスーパーの開店をきっかけに、昭和59年に設立されている。その後組合員による勉強会は継続して実施されたが、具体的な行動へは至らない状態が続いていた。しかし大型化した農協系スーパー「Aコープ」の相次いでの出店は地域商業者へさらなる危機感を与え、ついに平成5年同組合による商業施設作りが着工さる運びとなった。そして高度化資金などが活用され敷地約1万m²、店舗面積約2,200m²、駐車台数137台の近隣型ショッピングセンターが完成したのであった。

オープン当時のメンバーの業種は食料品スーパー、総合衣料、酒・贈答品、牛・豚・鶏肉・加工品、家電・ビデオレンタル、くすり・日用雑貨・化粧品、軽食・喫茶であった。

それまでの甲良町には商店の集積としての商店街がなく、同町で初めて誕生した人工的な商店街は地域の買い物の利便向上に大いに貢献したのであった。**突然訪れたアイムの転機**

しかし、平成7年に家電・ビデオレンタル、くすり・日用雑貨・化粧品、の2店が退店することになり状況は一変した。「当協同組合にとって2店舗の退店があった時が一番苦しい時期でした。このままでは日常生活に必要な品物がアイムでは揃わなくなってしまう。」と川上理事長は当時をふりかえられている。そこでかねてから懇意にしていた大垣出身のチェーン店「ドラッグユタカ」への誘致活動が両店が退店後直ちにはじめられた。努力の甲斐があって翌年8月には同ショッピングセンターの敷地内でのオープンにこぎつけることができた。「多少の商品パッティングはあってもトータルとしてこのショッピングセンターへの集客力が高まり、地域の消費者へ役立てればよい。との判断から組合員全員が納得の上で組合の一員に加わってもらいました。」オープン後は来店顧客の範囲が広がり、同ショッピングセンターの商圈は拡大している。同時期の平成8年度に、南彦根に巨大ショッピングセンターがオープンしたがその影響もほとんどなく、現在も客数は2ケタ伸びを維持しているのである。

地域に根ざした経営で甲良町商業の核を目指す

甲良町は以前より地元での購買率の低い地域であった。アイムオープン後は食料品や日用雑貨の最寄り品については確実に町外流出に歯止めがかかってきている。さらに地域で

の密着度を高めるために、年間を通しての販売促進や地域性を取り入れたイベントを精力的に行っているのである。具体的には4月の春まつりでは各集落で撮影された写真を催事コーナーへ展示して希望者へ無料でプレゼントが行なわれている。5月の創業祭、夏の中元売出し、冬の歳暮売出しを年間でのビッグイベントとして位置づけ、抽選会なども取り入れながら盛りあげているのである。お客様へのアンケートなどの実施で顧客の声を反映したショッピングセンター作りに努力を重ねているが、残念ながら現在も退店後の中央部分が空き店舗となったままの状態である。高度化資金借入れの関係上で改造にも限界があるが、アトムが甲良町商業の核になるためには地域消費者のニーズにいかに対応していくか、現在も要望の多い飲食店、履物類関連などの品揃えの充実がさしせまった課題であるといえる。せせらぎ遊園のまちづくりと連携した充実した商業施設は多くの人々の支持を受けるにちがいない。

(中小企業診断士 鐘井 輝)

滋賀県中小企業情報センター「月刊 企業の窓」1999年3月号執筆原稿